

澤田産業のコイルセンター事業

根津鋼材が譲り受け

加工・物流体制の最適化推進

独立系有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区、社長・根津訓光氏）と澤田産業（本社・東京都台東区、社長・澤田重美氏）は、根津鋼材が澤田産業のコイルセンター（CC）部門を事業譲受することで基本合意した。根津鋼材は2025年10月より、澤田産業の長野事業所（千曲市）と甲府事業所（笛吹市）の土地・建物・設備・従業員ならびに鉄鋼製品を引き継ぎ、「中部事業部・長野事業所」「同・甲府事業所」として新体制をスタートさせる。既存の需要先との取引関係は継続し、鋼板製品の安定供給に努めながら、根津グループ全体における加工・物流の最適化を推進する。

澤田産業は長野および甲府の2拠点で展開する独立系コイルセンター（茅野市）と合

根津社長は「今回の

タ。長野事業所はレベラーライン2基、スリッターライン2基のほか、二次加工設備としてミニスリッター、ミニレベラーおよびヤーリング9基を備える。甲府事業所は山梨県内で唯一のCCで、スリッターライン、レベラーライン各1基に加え、ミニスリッターを保有する。

今回の譲受により、

増車分を含めてグループ全体の輸送

事業譲受は、澤田産業「き」が縁があつてCCさんから話を聞いた1部門を引き継ぐことに

なった。今後も北信地区や山梨県内の地域の注目し、社内に「システムソリューション事業部」を設置。生産・物流・営業・業務全般にわたるシステムを自社開発し、インプットからアウトプットまでを一気通貫する独自システムを構築していく。

近年は「N（根津グループ）-CONNECT（コネクト）」構

想を掲げ、自社製品を自社で配送する体制を整え、自販用受発注ソフト「モーゼ」や、6月にリリースした加工用受発注システム「NOW」を活用し、ユーザーとの連携（コネクト）を積極的に進

めている。

